

## 実践報告・資料

# Macintoshセミナー実践報告

福山職業訓練短期大学校 近藤 桂司

## A Report on the Macintosh Seminar

Keishi Kondo

**要約** デザイナーが仕事にコンピュータを利用することは、ごく当たり前のこととなった。しかし、ソフトウェアを使いこなすには、かなりの忍耐と時間が必要である。クリエイティブな仕事に費やすべき貴重な時間を、コンピュータの操作方法を覚えるためやデータをコンバートするために使うのではCAD(Computer aided Design)の価値が半減してしまう。

すぐに実戦力として使い、すべての時間を創作活動に費やすことができ、かつ高性能なハードやソフトが求められてきた。そのようなニーズをもったデザイナーがこぞって導入しているパーソナル・コンピュータがある。それがMacintosh<sup>(1)</sup>である。

福山においてもMacintoshを導入する企業も多くなっており、それを反映してセミナーの開講を求める声が高まっている。本報告は、それらの声に応じて開講したセミナーの報告である。

### I 開講にあたって

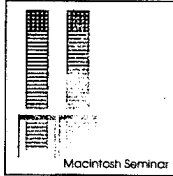
このセミナーでは、操作方法を学ぶことが目的ではない。目的はあくまでも作品を作ることである。操作方法を学ぶことは、そのための過程に過ぎない。作品を作るにはどのソフトを使えばよいのか。そして、そのソフトの機能をどのように使いこなせばよいのか。あるいはその作品を作るには絵の具で描いたほうがよいのか、それともコンピュータを使ったほうがよいのか。そのようなことを判断し、コンピュータを画材のひとつとして捉えることが肝要である。

セミナーの目的がデザインであることを印象づけるため、セミナー開催の案内や掲示物、フロッピーディスクのラベルにいたるまで、セミナーの内容にあったデザインを施した(図1~3)。

### II 地域や参加者の反応

福山市の広報に掲載して2日目には定員いっぱいにな

Macintosh Seminar



Macintosh Seminar

能力開発セミナー

**Mac入門講座のご案内**  
 このたび、Macintoshを利用したデザインのためのセミナー「Mac入門講座」を開催することになりました。ペイント系グラフィックソフトの講習会です。日時は次のとおりです。

日時：7月19・20日  
 9時～16時（両日とも）  
 使用ソフト：Studio8  
 使用ハード：IlexまたはIlex IIcx - IIIx  
 受講料：ひとり3000円  
 定員：10名

会場：福山職業訓練短期大学校  
 室内造形専攻室(美術室)  
 申し込み方法：本校教務課に電話で予約をしてください。そのあと、書簡による申し込みと受講料の振込をして下さい(詳しくは予約時にお尋ねください)。

申し込み期限：7月12日(金)  
 問い合わせ先：  
 福山職業訓練短期大学校  
 教務課  
 Phone:0849-23-6391 (代)

受講者ひとりMac1台のため、定員が10人と少なくなっています。お早めにお申し込みください。

〒720 福山市北本庄4-8-48 福山職業訓練短期大学校 教務課  
 Phone:0849-23-6391  
 Fax:0849-21-7038

図1 セミナーの開催案内

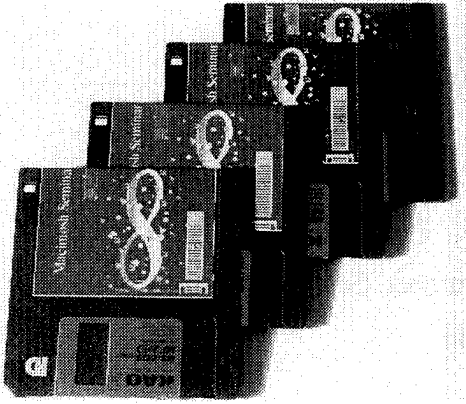


図2 セミナーで使用したフロッピーディスク

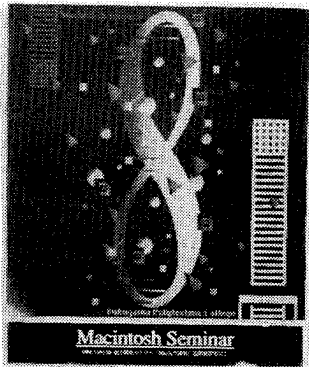


図3 セミナーの会場案内

り、キャンセル待ちの状態になった。その後も当短大はもとより、協力企業にも問い合わせや定員増（揃える機器の数を増やすことで定員を増やすことができる）の要請が頻繁にあった。

セミナー修了者のアンケート集計結果を見ると、業務上必要に迫られて受講した方が多く、地元企業のニーズの高まりがうかがえた。内容の評価も6割が「非常に役に立った」残り4割が「役に立った」と評価しており、セミナーとして成功したと考えられる。

### III 今回の能力開発セミナーの内容

今回のセミナーでは受講者用にMacintosh II ciと13インチモニタをそれぞれ10台用意した。これらは、当短大には整備されていないため、地元福山や広島の販売店の協力を得て用意した。一人一台が原則であるので、定員は10名となった。10名の定員のセミナーは、中国地区で

は過去には実施されることがなく、今回のセミナーが最大の規模となった。また、講師用には整備済みの1台（Macintosh II ci）を用いた。受講者を募集する際、受講資格は限定しなかったが、集まった受講者は全員がデザイナー（9名）もしくは建築家（1名）であった。そして、そのほとんどがMacintoshを日常的に使っているユーザーであった。したがって、セミナーの内容も当初予定していた入門レベルではなく、高度なものに変更せざるを得なくなった。

全くの初心者が1名いらっしゃったので、操作をマスターするための入門編を2時間行った。すぐれたGUI<sup>(2)</sup>（Graphical User Interface）のため、2時間もあれば基本操作（電源の入れ方、マウスの使い方からファイルのコピーや削除、文字入力、文書やグラフィックスの保存、階層管理など）を完璧にマスターすることができる。その後、代表的なビット・マップ・グラフィック・ソフト<sup>(3)</sup>であるStudio/8<sup>(4)</sup>の講習を行った。2日目は、ベクトル・グラフィック・ソフト<sup>(5)</sup>のIllustrator<sup>(6)</sup>の講習とフォト・レタッチ・ソフト<sup>(7)</sup>のPhotoshop<sup>(8)</sup>の講習を行った。この3つのソフトは、いずれもプロが仕事に使っても遜色ないものである。どの講習も操作方法を覚えながら実際に作品を作っていくという方法をとった。

また、講習終了後も機器を受講者に開放し、作品の制作や予習・復習ができるようにした。

### IV 今後の展望

コンピュータが絵筆や製図道具と同じレベルで使える道具にならなければ、デザインには使えない。絵の具を塗るようにマウスで描き、ロットリングで線を引くようにマウスで描いていく。できあがりはコンピュータ臭くなく、かく精密である。そして生産性が高い。これを満たすパーソナルユースの機器は、いまのところMacintoshしかないと思う。

Macintoshは高価だという声も聞かれるが、そう判断するのは早計である。ローエンド機種の標準仕様でもフルカラーの中から任意に選んだ256色が同時発色できる。新たに拡張ボードを購入する必要はない。プリンタやスキャナなどの周辺機器も標準仕様でMacintosh27台

で共有できる。ソフトの価格も安く、プロユースでも10万円から20万円の間で手に入る。ソフトの種類は全世界で最も多い。ソフト間でのデータ互換性が高く、能率的である。種々のメディア機器と直接つなぐこともできる。

さまざまな利点が上げられるが、本体価格の値下げや低価格の新機種発売により、Macintoshユーザーの数は飛躍的に増加しようとしている。これはグラフィックデザイナーや建築デザイナーの多い福山でも同様の状況である<sup>(9)</sup>。それゆえ、今回のようなセミナーの開催を求める声が高まっている。現在のMacintoshの販売状況からすると、本年度は、受講希望者が大幅に増加するものと考えられる。またすでに使っている人々が、実務レベルでのより高度な活用方法を模索して、講習を希望するものと思われる。

民間会社が行っているセミナーは、東京や大阪、福岡に限られており、1日数万円の受講料が必要である。中小の企業が社員を研修させるには無理がある。今回のようなセミナーを、短大で定期的に開催して欲しいという要望がでていたのは当然のことであろう。しかし残念なことに、当短大にはMacintoshが1台しか整備されておらず、定期的なセミナーの開催は不可能である。今回のセミナーもMacintoshの販売に携わっている複数の企業の協力を得てようやく開催できた次第である。少なくとも受講者用には10台は必要であろう。また、機種はMacintosh IIciもしくはそれ以上の能力を持ったものでなければ、描画スピードが遅く、円滑なセミナーができない恐れがある。

地域産業の振興を図る「地場産業振興センター」や、広島県東部地域のデザイン事業の中核となる「せとうちデザインセンター」にもMacintoshが導入され、Macintoshを使ったセミナーのニーズは高まっていると考えられる。これからは地元企業のニーズに応じて定期的なセミナーが開催できるよう、機器の整備を進めるとともに、研鑽を深めていかねばならない。

(注)

- (1) 米国アップル社のパーソナルコンピュータ。
- (2) ディレクトリ、書類、アプリケーション、ディスク、周辺装置すべてをメタファとなるアンコンで表

示し、それを直接操作することでコンピュータを動かす方式。

- (3) グラフィックスのデータを独立したドットの集合うソフトウェア。
- (4) エレクトロニック・アーツ社が開発したソフトウェア。
- (5) グラフィックスのデータを数学的に記述された図形データとして扱うソフトウェア。
- (6) 米国アドビシステムズ社が開発したソフトウェア。
- (7) ビット・マップ・グラフィック・ソフトの一種であるが、特に写真修正用に開発されたソフトウェアである。描画機能よりも明度やコントラスト調整など各種の修正機能を重視した設計になっている。
- (8) 米国アドビシステムズ社が開発したソフトウェア。
- (9) 福山地方産業デザイン振興協会編『デザインコンビナート調整計画』（1990）を参照した。

#### [参考文献]

福山地方産業デザイン振興協会編  
『デザインコンビナート整備計画』, 1990.



図4 インストラクターのアドバイスを受ける受講者

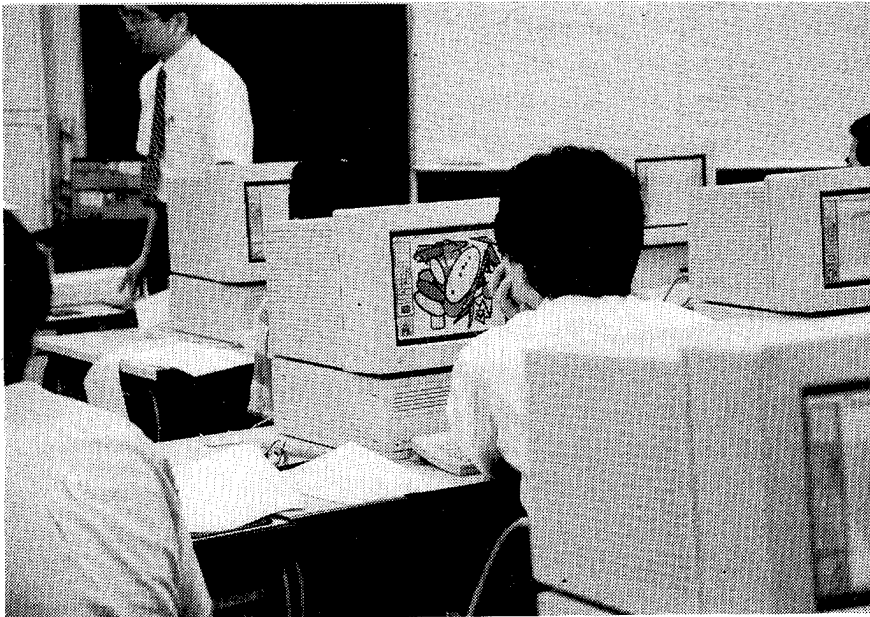


図5 Stuido/8の講習風景